

# 平成27年度 公益財団法人滋賀県陶芸の森事業報告

## ◇基本方針ならびに重点事項

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして主要な地域産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指し、自然の中での創造と遊び、文化と産業が一体となった多様な機能をもつ公園として整備され、陶芸館・信楽産業展示館・創作研修館の三つの施設を一体的に運営し県民の陶芸に対する親しみと理解を深める場である。これまで公益財団法人滋賀県陶芸の森が管理運営してきた中で蓄積した情報収集力や技術力、国内外の人的ネットワーク、研究成果、収蔵作品等の活用、施設管理などのノウハウを基盤にし、地域性、国際性および現代性を備えた魅力ある事業の積極的な展開を図り、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に努めた。

平成27年度は、滋賀県立陶芸の森が平成2年6月に開設されて25周年を迎え、これまでの検証と更なる情報の発信の機会ととらえ多彩な記念事業を実施し、多くの参加者を得て成功裏に終えることができた。また、県および甲賀市からの指定管理の最終年度として総まとめを行うと共に、新たに平成28年度からの5年間の指定管理者として選定を受けた。

## 第1 県民に親しまれる施設運営に関する事業

### 1. 公園機能の充実

太陽の広場や星の広場など人々が自由に憩い楽しめるよう公園機能の充実を図り、また施設を安全かつ清潔に保ち、植栽の維持管理に努め、入園者に快適な空間の提供とサービスの向上に努めた。(陶芸の森 年間入園者数 400,238人、昨年度336,390人)

#### (1) 陶芸作品の野外設置

作品キャプション等を作り直し、作品の保全に努めた。

#### (2) 窯の広場の充実

穴窯をはじめとする7基の薪窯で陶芸家のモチベーションをあげることができた。「しがらき学ノススメ!」では講座のバリエーションを増やし、また来園者には活きた薪窯を見てもらい、陶芸の森らしい園内散策のポイントとした。

#### (3) 火鉢ロードの充実

昭和の時代に信楽焼の主力製品であった各種の火鉢を植木鉢として再利用し、来園者に楽しんでもらうために植栽管理に努めた。

#### (4) 花咲く太陽の広場

太陽の広場から陶芸館にかけての斜面の桜の手入れや草花を植えて景観の向上に努めた。

#### (5) エクステリアゾーン

信楽産業展示館周辺にガーデンセットなどのエクステリア商品を設置し、信楽焼の強みとされる大型陶器を展示し来園者に実際に使用してもらった。

#### (6) ボランティア活動推進事業

平成27年度登録ボランティア数	36人
・ 展覧会解説	1人
・ 子どもやきもの交流事業	13人
・ 展覧会開会式展補助	12人

・団体見学案内補助	3人	
・園芸活動	10人	
・資料整理	3人	
・見学会参加（七宝焼アートビレッジ）	5人	計 延べ47人

## 2. 地域の観光拠点としての集客促進事業

滋賀県南部地域の観光拠点である陶芸の森へ多くのやきものファンや観光客に来園してもらい、信楽をよりよく知ってもらうよう各種講座や陶器市など様々なレクリエーションイベントを開催した。

### (1) しがらき体験 しがらき学ノススメ！

陶芸の森の施設を活用して信楽焼について広く学んでもらえるよう、技法別の講座や穴窯による作品の制作など幅広いテーマを取り上げて陶芸制作講座を開催した。団体向けにも目的にあった講座を別途受け付けることで増収を図った。

#### ア. 実技講座シリーズ

##### (ア) ミニ窯をつくろう！

＜開催日＞5月31日（日） 講師：小牧鉄平 （参加者：14人）

手びねりでぐい呑み数個焼くことができるミニ窯を制作した。乾燥後素焼きし、木炭を燃料にしたミニ窯の焼成体験を行った。

##### (イ) ラク焼上級講座

＜開催日＞6月14日（日） 講師：奥田英山 （参加者：12人）

講師の指導のもと茶碗を制作し、後日ラク焼の焼成を行い赤ラク・黒ラクなどの茶碗が出来あがった。また7月26日には焼いた茶碗を使った茶会を開催した。

##### (ウ) 練り込み技法でうつわをつくろう！

＜開催日＞6月28日（日） 講師：村田 彩 （参加者：17人）

陶芸家の指導のもと、練り込みの技法を基本から学び、石膏型を使用し、皿・鉢などのうつわを制作した。

##### (エ) しがらき学ノススメ+1 ― 鑑賞&作陶 講座 ― 「古陶磁との、はしわたし」

＜開催日＞7月12日（日） 講師：榎本佳子 （参加者：11人）

学芸員とともに、陶芸館所蔵の名品を手じゅくり鑑賞した後、作家の指導のもと鑑賞した作品を写したりアレンジを加えて新たなうつわを制作した。作品鑑賞と作陶体験からやきものを学ぶ、特別鑑賞塾と実技講座をセットにしたユニークな講座となった。

##### (オ) 陶アクセサリーをつくろう！ 【新規】

＜開催日＞7月19日（日） 講師：津守愛香 （参加者：14人）

エジプシャンペーストという新しい素材を使用し、髪留め・ブローチなどのアクセサリーを制作した。

##### (カ) 「上絵付けに挑戦しよう！」

＜開催日＞10月25日（日） 講師：渡部味和子 （参加者：16人）

絵付け技術の習得を目指し、お皿に上絵付けをした。

##### (キ) 「手びねりでうつわをつくろう！ 豪快に盛る！まな板皿をつくる」

###### 特別展「信楽への眼差し」関連企画

＜開催日＞11月15日（日） 講師：神山直彦 （参加者：18人）

陶芸家の指導のもと、まな板皿と揃いの取り皿を制作した。

##### (ク) 「イッテコイ窯で作品を焼成しよう 干支の置物、うつわをつくる」

＜開催日＞12月6日（日） 講師：八幡 満 （参加者：12人）

平成28年の干支の猿の置物などを作成した。作品は後日、イッテコイ窯で焼成した。

ケ) 「つくった器に盛って美食を楽しむ」

＜開催日＞12月5日(土) 講師：小川顕三 (参加者：3人)

陶芸家の指導のもと懐石の器作りを学び向付、鉢などを制作した。作品の完成後には料理人に作品にあった料理を作ってもらい、食事も楽しんだ。

コ) 「ラク焼の茶碗をつくろう！」

＜開催日＞3月13日(日) 講師：奥田英山 (参加者：27人)

手びねりで赤ラク、黒ラクなどの茶碗を制作した。

イ. 穴窯体験講座の開催

◎初級講座 「自由制作」

＜開催日＞8月16日(日) 講師：大西左朗 (参加者：8人)

陶芸家の指導のもと、2kgの粘土を使用し、食器・茶碗など自由に作陶した。作品は後日、穴窯で焼成した。

◎中級講座 「花入をつくる」

＜開催日＞9月6日(日) 講師：六代 上田直方 (参加者：11人)

陶芸家の指導のもと、5kgの粘土を使用し花入を制作した。作品は後日穴窯で焼成した。

◎上級講座 「大壺をつくろう」

＜開催日＞9月26日(土)、27日(日) 講師：篠原 希 (参加者：14人)

陶芸家の指導のもと、10kgの粘土を使用し大作に挑戦した。2日間にわたり大壺を制作し、後日穴窯で焼成した。

◎「穴窯講座(初級向け) 信楽蹲、掛花入をつくる」 特別展「信楽への眼差し」関連企画

＜開催日＞10月4日(日) 講師：五代 高橋楽齋 (参加者：17人)

蹲、掛け花入を制作し、作品は後日、穴窯で焼成した。

ウ. 穴窯焼成クラスの開催

＜開催日＞説明会 5月16日(土) (参加者：12人)

焼成日 9月19日(土)～22日(火)

穴窯体験講座のリピーター等の経験者を対象に、30kgの粘土を使用し各々が作品づくりを行った。また自ら穴窯での焼成することにより、薪による焼成技術を習得した。

エ. スイッチバックキルン焼成クラスの開催

＜開催日＞説明会 8月16日(日) (参加者：12人)

焼成日 3月16日(水)～21日(月・祝) (参加者：12人)

20kgの粘土を使用し、スイッチバックキルンという従来の薪窯とは違った構造の火前、後ろの差ができていく少し変わった窯で作品を焼成した。

オ. 登り窯講座

◎(上級向け)「大壺をつくる」 特別展「信楽への眼差し」関連企画

＜開催日＞10月31日(土)、11月1日(日) 講師：神崎継春 (参加者：7人)

陶芸家の指導のもと、大壺を2日間にわたって制作した。作品は後日登り窯で焼成した。

◎(中級向け)「和の空間に合う陶灯づくり」 特別展「信楽への眼差し」関連企画

＜開催日＞11月8日(日) 講師：谷 敏隆 (参加者：5人)

陶芸家の指導のもと、陶灯などを制作した。作品は後日登り窯で焼成した。

カ. 団体受入

・京都造形大学通信学部 スクーリング

＜開催日＞7月3日(金)～5日(日) 講師：神崎継春 (参加者：9人)

穴窯で焼成する作品を制作した。また制作後に町内の見学も行った。

・京都市立芸術大学 美術教育研究会

<開催日>7月18日(土) 講師:細川政己 (参加者:10人)

穴窯講座中級と同等の内容で行った。

## (2) イベントの開催・誘致

### ア. 第9回 信楽作家市 in 陶芸の森の開催

<開催日>5月2日(土)~5日(火・祝)

<主催>しがらき作家市実行委員会

テント 87張(昨年度:85張)

出展者 約160人(昨年度:約160人)

来園者 29,532人(昨年度:23,988人/4日間 対前年度23%増)

5月の連休に実行委員会形式で開催した。陶芸関係者には来園者の多いゴールデンウィーク中の陶器販売の機会を、また来園者には「市」のにぎわいと雰囲気を提供することができ、好評を得た。

### イ 第20回信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森

<開催日>10月10日(土)~12日(日) (3日間)

ブース数 172件(昨年度:160件)

テント数 121張(昨年度:72張)

出展者数 約121人(昨年度:約120人)

来園者数 24,108人(昨年度:15,498人/2日間 対前年度比156%)

### ウ わくわくウォーキング in 陶芸の森

<開催日>12月13日(日) (参加者:52人)

<協力>ぼぼんた倶楽部(総合型地域スポーツクラブ)

### エ 平成27年度陶芸の森フォトコンテスト

<募集期間>5月1日(金)~10月31日(土)

<応募者数>28人(県外19人、県内9人(うち甲賀市内2人))

<応募点数>88点

<結果>特選 桑原達夫 『秋探し』

入選 北村正博 『大空へのゲート』

太田 剛 『幸せ家族』

尾本章子 『陶芸の森の秋』

佳作 5人

<表彰式>11月22日(日)

特選 賞状、賞金2万円

入選 賞状、賞金1万円

<審査員>今井一郎(全日本写真連盟会員)

黄瀬三朗(日本石仏協会理事)

川口雄司(滋賀県陶芸の森理事長)

## (3) 作品の貸出事業

県民に気軽に陶芸に親しんでもらえるよう、創作研修館で制作されたスタジオ・アーティストの研修作品やゲスト・アーティストの作品を、ホテル、公共施設等に貸出しを行い、陶芸文化の普及向上に努めた。

貸出実績 6箇所 計 26作品

#### (4) 観光および集客促進のための広報活動

- ・近代美術館、陶芸の森、MIHO MUSEUM、佐川美術館4館によるスタンプラリー
- ・雑誌・フリーペーパーへの取材協力・読者プレゼントの提供
- ・Facebook・Twitterでの情報発信
- ・節電クールライフキャンペーンへの参加

＜実施期間＞7月22日（水）～8月28日（金）

節電広報チラシ持参で、無料で入館

- ・テレビ滋賀プラスワン（びわこ放送） 11月7日（月）放送
- ・滋賀経済NOW（びわこ放送） 12月12日（土）放送
- ・6時だよ！知ったかぶりカイツブリにゅーす（びわこ放送） 1月14日（木）放送
- ・県内7館広報等会議 2月26日（金）
- ・SNSの活用 Facebook ページ いいね！数 1,138件（5/13現在）  
twitter フォロワー数 1,256件（5/13現在）

### 3. 施設の管理

陶芸の森が、地域の産業振興や文化の創造、環境の拠点として、また来園者にくつろいでいただける場所となるよう、良好な状態を維持するよう心がけた。

#### (1) 花木の植栽管理

公益財団法人滋賀県緑化推進会よりイロハモミジ2本、ヤマボウシ3本の寄贈を受け、太陽の広場下の創作研修館側法面へ植栽した。

### 4. 陶芸の森やきもの振興基金の周知活動

今年度の「陶芸の森やきもの振興基金」へは、3人の個人の方から合計320千円の寄付金をいただいた。

## 第2 陶芸文化の発信事業

### 1. 展覧会開催事業

陶芸館では産地への刺激を意識し、地域産業の振興にリンクするテーマによる展覧会や、滋賀の魅力である近江のやきもの文化や歴史、滋賀県在住の作家たちなど地域に根ざした展覧会を展開してきた。幅広く国内外の多彩なやきもの文化の魅力を新しい視点を交えながら、分かりやすく紹介する展覧会を開催した。（陶芸館 年間入館者数 56,431人、昨年度34,322人）

#### (1) 特別展「北欧スウェーデンの動物のやきもの リサ・ラーソン展」

＜開催期間＞4月1日（水）～6月7日（日） 59日間

入館者：31,418人（1日平均532人）

（※昨年度からの継続 3月7日（土）～6月7日（日）80日間、

入館者合計：39,980人 1日平均499人）

- ・関連事業：「子ども向け！自分だけのマイキーをお皿に」読み聞かせとお話絵皿

4月26日（日）（参加者：68人）

オープンスタジオ・アーティストトーク&ワークショップ

「デザインの世界と出会う 小松 誠」 5月16日（土）（参加者：50人）

ギャラリートーク 4月29日（日）（参加者：30人）

5月17日（日）（参加者：22人）

## UP cafe “北欧ゴハンとお茶の時間” 特別メニュー

レール&ミュージアム/マイキー形でかわいい 期間限定信楽高原鐵道との共通チケット

(販売数: 1,668枚)

ギャラリー リサ・ラーソンモニュメント展示 4月9日(木)～6月7日(日)

北欧デザインで魅力的な動物作品が幅広い人気を得ている、リサ・ラーソン。デザインのインスピレーションの源やスウェーデンの陶芸にも触れ、1950年代から現代までの作品や人気の「小さな動物園」、「アフリカ」など動物デザインシリーズやユニセフの「世界の子どもたち」シリーズなど、リサの陶芸デザインを集大成した日本で初めての本格的な回顧展を開催した。

全国から多くの来館者を得て、若い世代やファミリー層など新しい客層を獲得できたことや、信楽高原鐵道とのタイアップにより、鐵道を利用して多くの方がの来館されるなど地域振興にも寄与した。

## (2) 特別企画「土・祈り・イマジネーション…岡本太郎の言葉とともに」展

<開催期間> 6月14日(日)～9月23日(水・祝) 88日間

入館者: 14,966人(1日平均170人)

- ・関連事業: ギャラリートーク 7月20日(日) (参加者: 10人)  
8月16日(日) (参加者: 10人)  
9月21日(月・祝) (参加者: 30人)

レール&ミュージアム/期間限定信楽高原鐵道との共通チケット (販売数: 12枚)

- ・公開講座: 「土と身体性-今触ることとは」 7月18日(土) (参加者: 31人)

1970年の大阪万博のシンボルとなった「太陽の塔」をデザインし、裏側の黒い太陽を信楽で制作したことで知られる岡本太郎。それをきっかけに信楽で陶器の椅子などをデザインした。彼の言葉を散りばめながら、縄文や弥生土器、形象土器や子どもたちの陶芸、障害をもつひとたちの土の芸術にいたるまで展示するなかで、岡本太郎のやきものや芸術論を探った。

## (3) 特別展「信楽への眼差し」

<開催期間> 10月4日(日)～12月13日(日) 61日間

入館者: 8,614人(1日平均141人)

- ・関連事業: ギャラリートーク 10月18日(日) (参加者: 22人)  
11月22日(日) (参加者: 25人)

体験講座(再掲)

- ・穴窯講座 信楽蹲、掛花入をつくる 10月4日(日) (参加者: 17人)
- ・登り窯講座 大壺をつくる 10月31日(土)、11月1日(日)  
(参加者: 7人)
- ・和の空間に合う陶灯づくり 11月8日(日) (参加者: 5人)
- ・豪快に盛る! まな板皿をつくる 11月15日(日) (参加者: 18人)

「信楽茶壺-信楽陶工の勲章」「茶陶信楽への眼差し」「古信楽壺への眼差し」という3つのテーマから、人々の眼差しが信楽焼にどのように向けられてきたのかを紹介した。室町時代から江戸時代前期の茶陶、著名人らが愛蔵した中世期の古信楽壺など名品100点を展示。

## (4) 公募展「マイヤー×信楽大賞 伝統と革新-日本陶芸の今」の開催

- ・マイヤーガーデン会場(アメリカ ミシガン州)

<開催期間> 9月18日(金)～平成28年1月3日(日)

入場者: 200,205人(1日平均1,820人) 110日間

・陶芸の森会場

<開催期間> 3月12日(土)～3月31日(木) 17日間

入館者: 1,425人(1日平均 83人) ※3月末現在

(※平成28年度へ継続、開催期間 3月12日(土)～6月12日(日) 80日間)

<関連事業> ギャラリートーク 3月20日(日) (参加者: 10人)

滋賀県とアメリカ・ミシガン州の姉妹友好関係を契機とした、フレデリック・マイヤーガーデンズ&スカルプチャーパークの日米共同企画の公募展。伝統の技に美を追究した作風、陶の可能性と限界に挑む表現や現代のうつわなど。多様な展開をみせる現代の日本陶芸の様相を、285点(212人)の応募作品から日米の審査員が選考した入賞・入選作26点を通して紹介。グローバリズムの進展と共に、新たな転換期の渦中にある日本陶芸の未来像を模索した。(既催のアメリカ会場からの凱旋展)

(5) しがらき学ノススメ+1 - 鑑賞&作陶 講座 -

<開催日> 7月12日(日) 講師: 榎本佳子 (参加者: 11人)

学芸員とともに、陶芸館所蔵の名品を手じゅく鑑賞した後、作家の指導のもと鑑賞した作品を写したりアレンジを加えて新たなうつわを制作した。作品鑑賞と作陶体験からやきものを学ぶ、特別鑑賞塾と実技講座をセットにしたユニークな講座となった。

(6) 博物館実習

<期間> 8月25日(火)～8月28日(金) (実習生: 1人)

(7) マイヤーガーデン滋賀プロジェクト事業への協力

- ・滋賀特別展「Splendors of Shiga- Treasures from Japan (滋賀の輝き-日本からの宝物)」

<開催期間> 1月28日(水)～8月16日(日) 199日間 (入館者: 386,555人)

滋賀県とミシガン州との姉妹友好交流を土台とし、米国における滋賀の魅力を発信や県内産業の海外展開、観光交流の推進などを目的として、ミシガン州のフレデリック・マイヤーガーデンズ&スカルプチャー・パーク(以下「マイヤーガーデン」という。)で開催された滋賀特別展に協力した。

- ・日本庭園内茶室の茶道具のコーディネート

マイヤーガーデン内に新たにオープンした日本庭園内の茶室用の茶道具のコーディネートに協力した。うち54点は県内の陶芸家や窯元の作品を揃え、滋賀の陶芸をアピールした。6月10日にはマイヤーガーデン茶室で行われた、三日月知事主催の茶会でも使用された。

(8) 収蔵品収集(管理)事業

陶芸館収蔵品収集として前期では、信楽「罍(うずくまる)」(室町時代後期-桃山時代)を購入し、後期には、寄付作品54点を収集審査会にて承認された。収蔵品(収蔵庫)の点検整理作業を実施し、作品の点検と保存環境の整備に努めるとともに、展示什器や機器の点検整備も行った。

(9) 陶芸館ギャラリー企画展

- ・「つちっこ!なるほどやきものコーナー」(やきものの素材などを触って体験する展示)

<開催日> 6月14日(日)～7月20日(月・祝) 陶芸館ギャラリー

1学期の授業展示作品約50点。(甲賀市立小原小学校とミシガン大学の学生作品)

- ・「子どもたちの造形-本物との出会いから

ミシガン大学×小原小学校のこどもたち～コミュニケーションを楽しみながら作品制作

<開催日> 7月25日(土)～8月30日(日) 陶芸館ギャラリー

- ・アーティスト・イン・レジデンス企画展「今野朋子 - 境界を越えて…」

<開催日> 3月12日(土)～3月27日(日) 陶芸館ギャラリー

生命の本質的な美しさを、独自の造形表現で追求している今野朋子(ゲスト・アーティスト)の成果展。信楽でのさまざまな出会いのなかで、心に息吹いたイメージをインスタレーション作品から紹介した。

- (10) 子ども事業と連動した陶芸館入館もう一回券「つちっこプログラム 陶芸館に行こう！」の回収  
<回収期間>4月1日(水)～3月31日(木)(回収数:95枚、随行者の数226人)

## 2. 創作事業(アーティスト・イン・レジデンス事業)

やきものの産地である信楽でレジデンス事業を行っているメリットを最大限に、そして双方向に活かし、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させるよう努めた。

### (1)スタジオ・アーティストの受入れ 計 46人

村山まりあ(4/1-4/9)、鍾雯婷[ツォン・ウェンティン](台湾 4/1-4/12)、張一楊[チャン・イーヤン](中華人民共和国 4/1-4/18)、辛明蕙[サン・ミンワイ](中華人民共和国(香港)4/1-5/8)、シルヴィー・マルグリータ(フランス 4/1-5/10)、植田麻由(4/1-5/22)、井掛紗百合(4/1-5/31)、大谷滋(4/1-5/31)、郭舒凡[クオ・スーファン](台湾 4/1-6/30)、ジュリー・ヨーク(カナダ 4/29-5/29)、エレナ・レンカー(ニュージーランド 5/1-5/31)、榎野真由美キーファー(アメリカ 6/5-7/7)、尹泳文[ユン・ヨンナム・テッド](大韓民国 6/20-7/20)、尹永洙[ユン・ヨンス](大韓民国 6/20-7/20)、趙光勳[チョウ・クァンフン](大韓民国 6/20-7/20)、カリン・プッチュ・グラススイ(イタリア 6/21-8/14)、マリナ・L・デ・カロ(アルゼンチン 6/23-8/31)、ケイト・ブレット(イギリス 6/30-7/28)、須齋尚子(7/10-8/31)、ベアトリス・ボン・シュミット・パウリ・ホークス(ドイツ 7/16-8/16)、福井揚(7/22-8/31)、スー・フレイザー(オーストラリア 9/1-9/28)、ルイス・フルトン(オーストラリア 9/1-9/28)  
陳韋竹[チェン・ウェイ・チュウ](台湾 7/18-3/31)、サラ・クロトゥッシュ(フランス 9/1-10/15)、ルシアン・デュブイ(スイス 9/1-12/17)、アダム・バーナード(アメリカ 9/1-12/18)、アン・バニック(デンマーク 9/15-11/24)、玄尚哲(10/1-2/14)、シルヴィー・エンジェルベール(フランス 10/7-11/15)、村山まりあ(10/9-3/17)、大谷滋(10/11-2/14)、シャリ・コヘン(カナダ 10/15-11/15)、劉逸偉[ラウ・ヤットワイ](香港 10/21-2/29)、朴宥貞[パク・ユウジョン](韓国 11/1-30)、植松永次(12/1-27)、上田勇児(12/1-2/18)、福岡佑梨(12/1-3/31)、小林ゆう(1/5-3/1)、奈良美智(1/13-19)、中田ナオト(1/31-2/29)、セクレット・ベルトランド(フランス 2/2-3/30)、ラリー・コヘン(カナダ 2/16-3/16)、スズ・マツダ(カナダ 2/16-3/16)、桑田卓郎(2/24-3/31)、キーファー榎野真由美(アメリカ 3/3-31)

日本在住17人、フランス4人、カナダ4人、アメリカ3人、中国1人、台湾2人、香港2人、韓国4人、スイス1人、デンマーク1人、ドイツ1人、ニュージーランド1人、イギリス1人、オーストラリア2人、アルゼンチン1人、イタリア1人

### (2)ゲスト・アーティストの招聘 計 12人

- ・桑田卓郎 4月1日～6月2日(前年度から継続)  
立体造形作品に陶芸の伝統技法である梅花皮(かいらぎ)や石爆(いしはぜ)を利用して制作を行った。大物用に調合した磁土のボディに原色の顔料を塗布し、その上からさらに原色の長石釉を分厚く載せていく。今回の滞在ではこの技法で高さ150cm前後にもなる大型の作品を10点ほど制作した。また滞在中に以下の個展が開催され、陶芸の森で制作した作品を出品した。
- ・ジュニファー・リー(イギリス) 4月1日～4月29日(前年度から継続) 10月3日～11月2日  
前年度に作った石膏型を使用してうつわの制作を行った。ボディには白信楽を使用し、マンガンを混ぜた色土を埋め込んだ。また同様の技法で陶板の制作も行った。創作研修館ギャラリーにて、個展「ただの夢でしょうか。」を開催した。
- ・矢部俊一 4月10日～7月18日、9月2日～10月13日、1月10日～3月31日)  
備前の土での造形作品の制作を行っている。形態に対する意識が強く、手びねりでおおよその形を作った後、表面を削りだして成型を行う。今回の滞在では備前土に陶芸の森ブレンド土を混ぜた



粘土や粒子の大きさを調整した土を作るなど、土の配合の試験を重ねた。作品の焼成は薪窯で行った。28年4月に陶芸館で展覧会を開催した。

- ・今野朋子（インドネシア在住） 6月20日～7月20日、9月8日～10月12日 1月23日～3月31日  
磁土と顔料入りの色磁土を練りこんだ物を手びねりで成型し、植物のように見える形態を作り上げる。今回の滞在では繊維入りの磁土を使用し、普段よりも大きなものを成型した。陶芸館ギャラリーにて「今野朋子ー境界を越えてー」展（3月12日～3月31日）を開催した。
- ・禹 寛壕（韓国） 6月20日～7月10日（前年度からの継続）  
信楽の狸、人形の頭部の型取り、鋳込み、焼成の繰り返しを経て集まった石膏型への鋳込み作業。様々な大きさの型に磁器土、数種類の顔料を混ぜたもの磁器土を鋳込み成形した。焼成はガス窯に松灰や藁を入れて行った。
- ・小松 誠 6月22日～7月18日 1月10日～2月21日  
磁土の泥ししょうを石膏型に流し込み、卵型に鋳込み原型を作る。その原型の表面には現代の商業社会の象徴とも言える企業ロゴや商品ロゴを型取りしたピースを隙間無く貼り付けていく。現代社会に対してのメッセージが込められた作品を制作した。焼成は電気窯を使用して行った。また、タタラづくりで直線的な花器などを制作し、穴窯で焼成した。
  
- ・神谷紀雄（日本）（10/14-10/25、11/18-11/29、12/4-12/6）  
赤土を使用し、ロクロ成形で壺鉢など制作。銅、弁柄、ゴスなどで植物などの図柄を絵付け、灰立ての透明釉を掛け還元焼成した。また、短期の研修を町内の陶芸関係者を対象に行った。
- ・西田泰代（チェコ在住 11/3-28）  
磁器によるうつわの焼成、仕上げを行った。「チェコ陶芸の新世代」と題した講演会を11月27日に開催した。
- ・松井紫朗（12/7、12/9、12/12-12/15、12/19 平成28年度に継続）  
モノの内側と外側の概念が同化するような壺と硯状のオブジェを制作。
- ・町田桂子（フランス在住 1/16-19 平成28年度に継続）  
男性と女性などの異なる要素が混在するイメージの人物や動物像を複数制作した。
- ・ベンテ・ハンセン（デンマーク 3/14-31 平成28年度に継続）  
磁器でシリンダー型の器を制作した。
- ・ボディル・マンズ（デンマーク 3/14-31 平成28年度に継続）  
磁器でシリンダー型の器を制作した。

### (3) 陶芸の森25周年シンポジウム、ワークショップ招聘作家

ジョシュ・デ・ウィーズ（アメリカ 8/31-9/30）、林美岡[イム・ミガン]（韓国 8/15-9/14）、張凌云[チャン・リンユン]（中華人民共和国 8/15-9/11）、ウーラ・リスラレード（ノルウェー 8/21-9/20）、ビクトル・マヌエル・ファレス（ペルー 8/14-9/23）、モーテン・ロブナー・エスパーセン（デンマーク 8/15-9/15）

### (4) 創作研修館オープン・スタジオ、ワークショップ、講演会

#### ・第1回オープン・スタジオ

<開催日> 5月16日（土）（参加者：60人）

<講師> 小松 誠（手工業デザイナー 武蔵野美術大学名誉教授、愛知県立芸術大学客員教授）

<内容> アーティスト・トーク「リサ・ラーソン展関連企画 デザインの世界と出会う！」

#### ・第2回オープン・スタジオ

<開催日>6月21日(日) (参加者:15人)

<講師>矢部俊一、今野朋子、禹寛壕

<内容>来館中のゲスト・アーティストである矢部俊一、今野朋子、禹寛壕三氏の制作の見学を主に行った。

・第3回オープン・スタジオ

<開催日>7月20日(月・祝) (参加者:18人)

<講師>小松誠

<内容>来館中のゲスト・アーティストである小松誠氏の制作見学を主に行った。

・第4回オープン・スタジオ

<開催日>10月17日(土) (参加者:10人)

<講師>神谷紀雄、ジェニファー・リー

<内容>来館中のゲスト・アーティストである神谷紀雄氏、ジェニファー・リーの制作見学を主に行った。

・第5回オープン・スタジオ「チェコ陶芸の新世代」

<開催日>11月27日(金) (参加者:50人)

<講師>西田泰代、ヴラディミール・グロフほか3人

<内容>ヨーロッパの各地の大学で、陶芸学科が閉鎖されつつある昨今、チェコの教育を率いる作家・デザイナー5人のそれぞれの活動や各大学の様子を紹介しその現状や傾向をさぐった。

・第6回オープン・スタジオ

<開催日>12月5日(土) (参加者:20人)

<講師>神谷紀雄

<内容>日本工芸会正会員で千葉県指定無形文化財保持者である神谷紀雄氏に、ロクロによる壺つくりの指導、絵付けの指導をしてもらった。

・第7回オープン・スタジオ「今野朋子ー境界を越えてー」

<開催日>3月12日(土) (参加者:50人)

<講師>今野朋子

<内容>陶芸館ギャラリーでのゲスト・アーティストによる展示の鑑賞。

「今野朋子ー境界を越えてー」展のオープニングにて、今野氏によるアーティスト・トークを行なった。今野氏が自身の制作や作品について解説した。

◎レジデンスでの滞在作家の町内での活動

・スタジオ滞在中のアーティストを連れて、信楽町内の陶芸家の工房やメーカー工場等へ見学に行き、積極的に地域の産業後継者と交流した。

2回実施 訪問先:6箇所

・町内のイベントである「しがらき火まつり」に参加し、たいまつを愛宕山の陶器神社へ奉納した。

・土と手プロジェクト まちなか・やきものアートの遠足(エクスカージョン) SHIGARAKI INSPIRATION 展

これまでのゲスト・スタジオアーティスト10名の作品を窯元散策路内商店街の空き屋3カ所に展示し、スライドレクチャーなどを行われた。

<開催日>10月17日(土)~25日(日)

<開催場所>川端倉庫、旧藤喜陶器、山熊倉庫(窯元散策路内)、

<関連企画>アーティスト・トーク10月24日(土)

<主催>信楽まちづくりLAB

◎スタジオ・アーティスト、ゲスト・アーティストによる展覧会活動等

桑田卓郎展

<開催日>4月1日(水)～4月13日(月)

<開催場所>8/ ART GALLERY/ Tomio Koyama Gallery 東京

桑田卓郎展

<開催日>4月4日(土)～4月18日(土)

<開催場所>草月会館 東京

鍾雯婷 「薄光」展

<開催日>4月14日(火)～4月25日(土)

<開催場所>SILVER SHELL 東京

ジェニファー・リー「ただの夢でしょうか。」展

<開催日>4月24日(金)～4月26日(日)

<開催場所>創作研修館ギャラリー

植田麻由「The winter & spring in SCCP」

<開催日>5月16日(土)、17日(日)

<開催場所>創作研修館ギャラリー

井掛紗百合展

<開催日>5月23日(土)、5月24日(日)

<開催場所>創作研修館ギャラリー

カリン・プッチュ・グラスィ展

<開催日>8月8日(土)、9日(日)

<開催場所>創作研修館ギャラリー

林美岡、Ole Lisreld展

<開催日>9月1日(火)～30日(水)

<開催場所>創作研修館ギャラリー

ジョシュ・デ・ウィーズ、サラ・クロトツシュ、ルシアン・デュブイ

<開催日>9月20日(日)～9月25日(金)

<開催場所>創作研修館ギャラリー

ルイス・フルトン

<開催日>9月25日(金)～9月27日(日)

<開催場所>創作研修館ギャラリー

ジェニファー・リー「信楽・ロンドン：旅の軌跡と蓄積」

<開催日>10月16日(金)～11月8日(日)

<開催場所>艸居/京都

禹寛壕(大韓民国) 土と手プロジェクト まちなか・やきものアートの遠足(エクスカージョン)

SHIGARAKI INSPIRATION展「一万個のプレゼント」展

<開催日>10月17日(土)～25日(日)

<開催場所>川端倉庫(窯元散策路内)、

アーティスト・トーク10月24日(土)

Kwanho Woo 「CHAOTIC DREAM」

<開催日>1月15日(金) - 1月30日(土)

<開催場所>現代美術 艸居、京都

今野朋子 国際陶芸フェスティバル in ささまに出品

<開催日>11月20日(金)～11月22日(日)

<開催場所>静岡県

松井紫朗「二人展」

<開催日>1月23日(土)～3月5日(土)

<開催場所>銀座 東京画廊+BTAP/東京

村山まりあ「Stuffed animals」

<開催日>2月5日(金)～2月27日(土)

<開催場所>艸居/京都

植松永次「EIJI UEMATSU COLLECTION」

<開催日>2月13日(金)～4月27日(水)

<開催場所>SOUTOUSYA+KYOTO/京都

大谷滋・上田勇児「KAZUNORI HAMANA, YUJI UEDA, OTANI WORKSHOP Curated by Takashi Murakami」

<開催日>3月3日(木)～4月9日(土)

<開催場所>BLUM&POE NEWYORK/アメリカ合衆国・ニューヨーク

福岡佑梨「鏡片-Lens-龐博+福岡佑梨」(平成28年3月28日～平成28年4月2日)

<開催日>3月28日～4月2日

<開催場所>ギャラリー白/大阪

◎その他過去に滞在したスタジオ・アーティスト等の活躍について

日本伝統工芸会近畿支部展への入選等

### (5)国内外のレジデンス機関等との連携

9月に開催した国際シンポジウムでの交流により10月と12月に、中国および韓国のレジデンス機関からの招待により職員が出張し、今後の関係強化について協議するとともに、陶芸の森のレジデンス事業を学生等に紹介する機会を得た。また11月には鳥取県米子市で開催された関西広域連合主催のシンポジウムに職員がパネラーとして参加し、海外との連携について発表した。この関西広域連合主催のシンポジウムについては、来年度、陶芸の森の企画で開催する予定であり、現在関係団体と協議中である。

- 中華人民共和国 中国美術学院(杭州)、  
Pottery Workshop 景德鎮・景德鎮陶磁学院(景德鎮)
- 韓国 金海クレイアートセンター(プサン)、国立忠南大学校(大田広域市)
- 鳥取県米子市 米子コンベンションセンター

## 3. 子どもやきもの交流事業

陶芸の森の特性を活かして、やきものに関する鑑賞教育や体験教育をさまざまな形で積極的に行った。学校との連携プログラムをさらに充実させ、信楽焼をはじめとした陶芸文化の普及や陶芸の森へのリピーターを促進し、次世代に亘る陶芸の森ファンの獲得につなげるよう努めた。

### (1)「本物と出合うー総合的学習プログラム事業」宝物事業と連携

- ・連携授業 参加者 105件 7,019人
- ・来園プログラム 参加者 12校 684人
- ・ねんど遊ぶ 参加者 5件 351人(5回開催 平均70人) 合計

世界にひとつの宝物づくり事業「世界にひとつの宝物づくり実行委員会を組織」

参加者 111回 3,501人

## (2)夏季研修会—「美術館との総合的学習のあり方を探る」

第1日目 7月18日(土) 陶芸の森 (参加者31人) (土・祈り展公開講座)

第2日目 8月6日(木) MIHO MUSEUM (参加者59人)

## (3)連携授業および世界にひとつの宝物づくり展の成果展開催(再掲)

- ・「つちっこ!なるほどやきものコーナー」(やきものの素材などを触って体験する展示)

<開催日>6月14日(日)~7月20日(月・祝) 陶芸館ギャラリー

1学期の授業展示作品約50点。(甲賀市立小原小学校とミシガン大学の学生作品)

- ・「子どもたちの造形—本物との出会いから

ミシガン大学×小原小学校のこどもたち~コミュニケーションを楽しみながら作品制作

<開催日>7月25日(土)~8月30日(日) 陶芸館ギャラリー

## 第3 産業の振興に関する事業

陶芸の森では、信楽焼の伝統技術を将来に継承するするための人材育成事業、およびデザイン活性化事業、さらに信楽の陶器業界が運営している信楽産業展示館での展示により信楽陶器産業の振興に努めた。

### 1. 信楽産業展示館の活用

#### (1)陶器まつりでの産業展示館のブース展示

<展示期間>10月10日(土)~11月8日(日)

<展 示 品>信楽透土を使用した照明器具(デザイン:織田阿奴(日本工芸会正会員))

平成26年度に試作した加飾デザイン作品の展示をおこなった。

### 2. 人材育成事業

#### (1)信楽高等学校への支援事業

##### ア. デザイン科外部研修受け入れ

<開催日>絵付け:5月29日(金) (参加者:22人)

窯出し:6月19日(金) (参加者:20人)

<講 師>織田阿奴(日本工芸会正会員)

「つくられるものの公共性に対する認識」と「個人の自由な表現」の両立という、デザインにおけるバランス感覚を養うためデザイン科3年生を対象に、陶芸の森にて実習を行った。織田阿奴氏の指導のもとに信楽の産業製品である陶製の椅子に「四季」をテーマに絵付けをした。

##### イ. 野焼き体験実習

1年生 産業社会と人間 校外学習

<実施日>10月22日(木) (参加者:1年生 71人)

産業社会と人間で学んできた陶芸史の内容を実体験することで、陶芸に対する理解を深める。作陶や造形、焼成作業、陶芸の森施設見学を通して、2年次系列選択の選考材料とする。

##### ウ. 登り窯で焼成する伝統的やきもの制作

2年生セラミック系列を対象とした作家による実習指導

<実施日>10月20日(火) (参加者:2年生 29人 社会人聴講生6人)

<講 師>藤原 純、徳地祐二、村山まりあ

12月に焼成する登り窯での作品制作を、3人の講師がそれぞれの設定したテーマにそって制作を行った。

## エ. 登り窯焼成実習

2年生セラミック系列 セラミック実習A特別授業

<実施日>11月17日(火) (参加者:2年生 28人 社会人聴講生6人)

伝統的で大規模な焼成を体験することで、陶芸作品に対する理解と陶活動に対する意欲の向上を図る。

## (2)信楽焼の産業後継者を対象とした短期研修事業

### ア 「小松誠 デザイン勉強会」

<開催日> 7月18日(土) (参加者等:6名+スタジオ・アーティスト)

<講師> 小松誠(手工業デザイナー、武蔵野美術大学名誉教授、愛知県立芸術大学客員教授)

ゲスト・アーティストとして滞在中の小松先生を講師にデザインの考え方を学ぶ研修会を実施した。スライドレクチャーを通して、先生の作品、デザインの考え方などを学ぶことができた。レクチャーのあとは先生を囲んでの勉強会、質疑応答がおこなわれた。また、参加者の作品、製品の講評、デザイン指導などをしていただき、最後は参加者の工場(卯山製陶)を訪れて講評していただいた。

### イ 「神谷紀雄先生 ロクロ、絵付け研修会」

<開催日>12月5日(土) (参加者:4人)

12月6日(日) (参加者:5人)

<講師>神谷紀雄

日本工芸会正会員で千葉県指定無形文化財保持者である神谷紀雄氏に、ロクロによる壺づくりの指導、絵付けの指導をしてもらった。

## 3. デザイン活性化事業

### (1) 既存製品への加飾によるデザイン提案

大形の陶製プランターを取り上げ、デザインを信楽町内在住の陶芸家である青木寿美子に依頼し、新しい感覚の絵付けの試作品が出来上がった。来秋の産業展示館での展示を行い、業界へのデザイン提案の一環とする。

## 4. その他

### (1) ふるさと名物応援事業(海外人材活用地域資源魅力発掘事業)

「<くわび・さび>の伝統美、信楽を海外へ！」の実施

一般財団法人海外産業人材育成協会(HIDA)が実施した経済産業省補助事業の事業に採択され、信楽焼の海外市場での販路拡大・輸出を目的とする下記プログラムを実施した。

<実施期間>12月1日(火)~5日(土)

<招聘者>アメリカ、カナダ、ロシア、アルメニア主要美術館の学芸員およびミュージアムショップのバイヤーら13人

<主なプログラム>①信楽窯元・作家・ギャラリー見学

②信楽焼消費地見学

③招聘者による信楽焼の海外展開についてのプレゼンテーション

## 第4 企画事業

### 1. ミュージアムショップの運営

展覧会図録や陶芸関係書籍およびオリジナルグッズ、特別展開連商品など独自色ある商品販売を行う

た。また、併せてインターネットを活用したオンラインショップでの商品提供や販売促進に努めた。

## 2. その他

### (1) 自動販売機の設置

入園者が自由に憩い楽しめるように公園内に自動販売機を設置し、快適なサービスを提供した。

### (2) 宿泊者用寝具の提供

創作研修館宿泊者用に寝具を提供した。

### (3) 薪窯燃料の提供

穴窯や登り窯の使用者に対し、燃料を提供した。

## ※県立陶芸の森開設25周年記念事業

### 1. 国際陶芸ワークショップ・シンポジウム

アーティスト・イン・レジデンスを視点として「信楽から世界を見る 世界から信楽を見る」

<開催日>ワークショップ : 8月中旬～9月中旬 創作研修館第2スタジオ

シンポジウム : 9月9日(水)、10日(木) 信楽産業展示館ホール

アーティスト・トーク : 9月11日(金)、12日(土) 信楽産業展示館ホール

招聘者 : 28人(海外陶芸家・海外レジデンス関係者19人、国内陶芸家等9人)

参加者 : 9月9日～12日 約150人(陶芸家、美術系大学の陶芸学科学生等)

<主催等>主催 : 公益財団法人滋賀県陶芸の森

後援 : 滋賀県、甲賀市、IAC 国際陶芸アカデミー、公益社団法人日本陶磁協会、東洋陶磁学会、  
信楽陶器工業協同組合、信楽陶器卸商業協同組合、甲賀市商工会、信楽陶芸作家協会

助成 : 文化庁 平成27年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業、吉野石膏美術振興財団

ワークショップでは、過去に陶芸の森でアーティスト・イン・レジデンスとして滞在した経験のあり、その後の活動に顕著な実績がある作家6人を招聘し、1ヶ月に渡り制作を行った。完成した作品は創作研修館ギャラリーで展示を行ったほか、アーティスト・トークにおいて制作者の立場で自らの国の現代陶芸を巡る状況について話してもらい、若手陶芸家や参加者間での相互理解を深めた。

またワークショップ、アーティスト・トークと併せて、世界各国のアーティスト・イン・レジデンス事業を実施している機関等が集いシンポジウムを開催した。

### 2. 25周年記念展覧会 (再掲)

#### (1) 特別展「北欧スウェーデンの動物のやきもの リサ・ラーソン展」

<開催期間> 4月1日(火)～6月22日(日) 59日間

入館者 : 31,418人(1日平均532人)

#### (2) 特別企画「土・祈り・イマジネーション…岡本太郎の言葉とともに」展

<開催期間> 6月14日(日)～9月23日(水・祝) 88日間

入館者 : 14,966人(1日平均170人)

#### (3) 特別展「信楽への眼差し」

<開催期間> 10月4日(日)～12月13日(日) 61日間

入館者 : 8,614人(1日平均141人)

#### (4) 公募展「マイヤー×信楽大賞 日本陶芸の今ー伝統と革新」の開催

<開催期間> 3月12日(土)～3月31日(木) 17日間 (平成28年度へ継続)

入館者 : 1,425人(1日平均 83人)

### 3. 「つちっこプログラム」特別研修会&ワークショップ (再掲 土・祈り展公開講座)

「土と身体性—今触ることとは」

<開催日> 7月18日 (土) (参加者: 31人)

<講師> 廣瀬浩二郎 (国立民族学博物館准教授)

大嶋 彰 (滋賀大学教育学部教授)

「触学」をテーマに研究されている廣瀬浩二郎氏と「視覚の解体」についての大嶋彰氏の講演のあと、土をコミュニケーションツールとしたワークショップを開催し、触ること、粘土を使った身体性を伴う動作の重要性について考えた取り組みを行った。教育関係者や視覚障害のある方々らが全国から集まった。

### 4. 信楽まちづくりLab「土と手プロジェクト」

町内若手を中心に組織した信楽まちづくりLabによるイベント。「信楽の暮らしの傍らにあるクリエイティブ」をテーマに、「アート」と「食」を切り口とした事業を開催。また同時に空き家のリノベーションを行い展示会場の1つとするとともに、今後の陶芸の森とまちとの連携を見据えた拠点となる場所づくりを行った。

#### (1) SHIGARAKI INSPIRATION展

<開催日> 10月17日 (土) ~25日 (日) (合計来場者: 1,062人)

<会場> 旧藤喜陶苑・山熊倉庫・川端倉庫

陶芸の森を訪れたレジデンスアーティストが「信楽」をテーマに制作した作品を中心に展示するまちなか展覧会。信楽の日常と歴史が詰まった町内3会場を選定し、それぞれの空間に調和する作家・作品をセレクトすることにより、風情ある街並みの中で、様々な作品と出会う機会とすることが出来た。

#### (2) おくど飯

<開催日> 10月17日 (土)、18日 (日) (来場者: 約300人)

<会場> 旧藤喜陶苑 広場

「手作りのかまど」・「信楽焼の羽釜」・「信楽のお米」を使い、昔ながらの「おくどごはん」を、飯碗を持参された方に召し上がってもらいイベント。また会場内では信楽の作家が「1人1点のみ」を出品する販売ブースを設置し、こだわりの器でご飯をいただく魅力を感じてもらった。

#### (3) 関連企画

・アーティスト・トーク: 禹 寛壕 (大韓民国) 「一万個のプレゼント」(再掲)

<開催日> 10月24日 (土) (参加者: 25人)

<会場> 川端倉庫

・レクチャー、ワークショップ、座談会

<開催日> 10月25日 (日) (参加者: 30人)

<会場> 旧藤喜陶苑

<講師> アサダワタル (「住み開き」提唱、日常編集家、「美の滋賀」アドバイザー)

辻 琢磨 (建築家/403architecture 【dajiba】、滋賀県立大学非常勤講師)

森田一弥 (建築家/森田一弥建築設計事務所、滋賀県立大学非常勤講師)

<コーディネーター> 川井 操 (滋賀県立大学 環境科学部環境建築デザイン学科 助教)